

和合

No.156

2024. 1. 1

題字：三浦修次

主な掲載記事

- 和合の里あれこれ……………2
- はやぐおっきぐなれの～！…3
- 我が家の民俗行事……………3
- よつばっこ通信……………4
- わたしが描く和合の里…………5
- わたしから見た和合の里……5
- 畑にこんにちは……………6
- 和合の里の取り組み……………6
- 人生100年時代……………7
- わごう駐在所……………7
- 第5回和合の里
フォトコンテスト入賞作品…8
- 和合の里 INFORMATION…………10

和合の里 あれこれ

【中野 編】

①村のはじまり

中野の村立は隣村である南興屋と同年代の寛永年間（1624～1644）といわれています。開村年については定かではありませんが、大正11年に300年祭が行われていることから元和9年（1623）と推測されます。慶長17年（1612）に北楯大堰が開削され、その支流から村の用水路を引くことで開発されました。

開発時は酒井藩の領地でした。天和2年（1682）には南興屋・南野新田などとともに、余目酒井家の領地となりましたがその後も領主が度々変わり、元治元年（1864）に再び庄内酒井藩領に復帰しました。当時は領主が変わるといのは大変なことで、酒井藩領の他の村々と相互扶助を行うこともできず、天保の庄内大凶作（1833～1837）の際には村潰れの危機に見舞われました。このとき同じ状況にあった南野新田・南興屋と村役人を中心に協力し、村の再建にあたりました。これを「地盤立」と言い、隣村の協力や庄内藩領主の配慮を受けたことも再建の助けとなりました。

②中野皇大神社

中野皇大神社は開村した頃に創設されたと言われてますが、詳細は伝えられていません。

明治になると神仏混合廃止が推進されます。明治2年（1869）の記録を見ると、当時の中野村鎮守神社は大日堂でした。境内に修験宗である法性院が神主を兼ね居住していましたが、明治9年（1876）3月に院号返上を申し出ています。その後、同年に大日堂は皇大神社に改められました。

令和4年4月15日には400年記念祭が開かれており、境内に記念碑を設置しました。これに合わせ社殿幕、神社外幕、神社内照明を新調しました。



中野皇大神社



400年記念式典



400年記念碑



③花植え

部落会のみなさんで集まり、中野公民館の花植えをしました。初夏に植えられたベゴニアは夏にかけて成長し、花壇を彩りました。

パパとママにインタビュー

はやぐおっきぐなれの～!



さいとう たお
齋藤 道ちゃん
(西袋)

令和4年10月10日生まれ

パパ：達也 ママ：真実

- ① “道”という字に縁があり、道のようにしっかり真っすぐ、のびのびと成長してもらいたいという気持ちで名付けました。
- ② 歩行器に乗ってお姉ちゃんとお家の中をグルグルまわって追いかっこをすること。
- ③ 初めて“2歩”歩いた瞬間!! 最近、また1歩、また1歩と歩ける様になりました。
- ④ オムツ交換の時に噴水が……笑
- ⑤ たくさんの事にチャレンジして、健康第一!! 元気いっぱいすすくおっきぐなれの～(*^_^*)



Q1 名前の由来は? Q2 今一番の興味やはまっていることは? Q3 最近記憶に残ったエピソードは?
Q4 パパママの失敗談(子育てあるある) Q5 パパママからのメッセージ

我が家の民俗行事

正月礼、盆礼、節句礼といった「礼」のつく年中行事は、親戚が互いに年間の節々に挨拶を交わし、宴を催す行事でした。

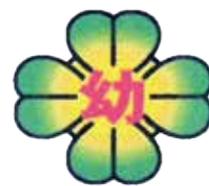
現在のような車社会になる以前は、親戚間が遠距離のような場合は汽車やバスを乗り継いだり、橋の完備されていない河を隔てて「渡し場」から舟で往来したりと容易なものではなく、宿泊を伴う行事でした。他家に嫁いだ親族の里帰りを兼ねており、兄弟姉妹の多かった昔は大変賑わったそうです。

【正月礼】





よつばっこ通信



冬到来！冬じたくの準備！がんばったよ

朝夕の寒暖差に冬の訪れを感じる日々。幼稚園では、冬じたくの準備を子ども達と一緒にしました。今年の冬は暖冬！？と言われていますが、いつ雪が降っても大丈夫な位、みんなで協力して取り組みました。よつばっこの子ども達のやる気はすごい！！どか雪！？ではありませんように・・・と願いを込めて♡

年中組🌸さんはチュウリップの球根植えをしました。芽が出る方を上にして慎重に土の中に埋めることができました。春が楽しみですね。



たくさんの落ち葉！
焼き芋やかめの
冬眠に使ったよ🍠



ほうきやくまでを
使って、落ち葉集め。
テラスにある落ち葉も
きれいにしたよ



年長組さん👧は砂遊びの道具を1つ1つ丁寧に洗って
くれました。手が冷たくても我慢して頑張る姿が！
物を大切にする気持ちも育てほしいな。



余目第四小学校 6年生

わたしが描く和合の里



ぼくは、笑顔がいっぱいで、やさしさがあふれるような和合の里にしたいです。そのために思いやりの心を育んだり、困っている人がいたら声をかけたりして、みんなが思いやれるような和合の里になってほしいです。



ぼくが考えている「和合の里」は、年齢や性別関係なくあいさつができたり親しくしたりできる「和合の里」です。それができるようになるには、コミュニケーションをとることが大切だと思います。ぼくの考えている「和合の里」に近づけるように自分からがんばりたいと思います。



ぼくが描く「和合の里」は、自然が豊かで、みんなが明るい「和合の里」です。そのために、ぼくは、ごみを拾うこと、川にごみを捨てないことなど、地域での清掃活動に参加することが重要だと思います。ぼくも積極的に取り組みたいです。



わたしが描く「和合の里」は、仲良く遊んだり学んだりすることができる場所です。相手の気持ちをいつでもよく考えて、より多くの人と一緒に遊んだり学んだりして生活していきたいです。



わたしは、ごみが少なく自然が豊かな和合の里にしたいです。そのために、花を植えたり、ごみを拾ったりして、だれにとっても居心地の良い和合の里にしていきたいと思っています。

わたしから見た 和合の里



庄内町立余目第四小学校
教諭 梅木 恵司

今

年度より余目第四小学校にお世話になっております。早いもので八ヶ月が過ぎました。「和合」という言葉を初めて知ったのは、四月に募集があった「わごうの広場」でした。そこで、初めて知ったとともに、放課後子ども教室を年間十九回も計画することに驚きを感じました。加えて、第一回目の「わごうの広場」で目にした参加者とスタッフの多さに二度目の驚きがありました。地域全体で子ども達を見守っていることを感じることができました。地域の行事として、六月の運動会と十月末に行われた「和合の里秋祭り」に参加させていただきました。世代を超えて一つのことに取り組むまとまりと、どの世代も楽しむことができるように配慮されている点に地域の伝統と力と知恵が蓄えられているのだと感じました。和合の里のことを知り、子ども達の成長の一助となれるようにしていきたいと思えます。

畑にこんにちは！

かとう や え
加藤 弥恵さん（小出新田）



冷たい風が吹き始め、家々で冬支度が始まる頃、今回は小出新田の加藤弥恵さんの畑にお邪魔しました。

加藤さんの畑では、カブ、ダイコン、タマネギ、白菜、ニンジン、長ネギ、枝豆、キャベツ、春菊、チンゲンサイなどの野菜を育てていました。グラジオラスなどの花も植えています。

今年の夏は雨が少なく、畑作りに苦労したようです。加藤さんの畑でも、枝豆の花がなかなか咲かない、野菜の成長が遅いなどの影響がありました。そんな中でも、カラトリ芋には一生懸命水をやったおかげか、収穫した芋は小さかったけれどおいしく食べることができたそうです。

元々はお義母さんが畑作りをしていたそうですが、加藤さんが仕事を退職したことをきっかけに畑作りに取り組むようになりました。元気なうちは畑を荒れさせたくないと思い、畑作りを続けています。昨年は7kgもある白菜が収穫出来たそうで、今年の収穫も心待ちにしています。収穫した白菜は漬物にする予定だそうです。自宅で食べる分の野菜を主に作っているそうですが、収穫した野菜をお友達や近所の方にお裾分けして喜んでもらえるのが嬉しいとおっしゃっていました。

体を動かすのが好きだという加藤さん。昔はヨガや太極拳に取り組んでいたこともあるそうです。現在は公民館の100歳体操やコメっちのすこやか体操などに参加されています。

先日はご家族から誕生日のお祝いにお花やお菓子のプレゼントを贈られたそうです。まだしばらくは畑作りを頑張りたいとお話してくださいました。



ご家族からのプレゼント

和合の里の取り組み

11月16日(木)、庄内町で導入されたマルチタスク車両が余目第四まちづくりセンター「和合館」に訪れました。今回はデジタル健康チェックを実施し、「和合館」を訪れた方々の血管年齢や野菜摂取充足度を車内で測定しました。

こちらの車両は今後、このようなイベントの実施を行うほか、「マイナンバーカード交付申請」やLINE操作などスマートフォンの利用方法を相談する「デジタルなんでも相談」については、町内の希望のあった場所へ車両出張を行い、役場への移動が困難な方へ利用を広めていくことを目標としているそうです。



人生100年時代

社会福祉法人みのり福祉会
特別養護老人ホーム ソラーナ
認知症地域支援推進員

今野 政嗣^{まさつぐ}



～若い頃からの口腔ケアで認知症予防～

2025年には高齢者の5人に1人が認知症になると言われ、「認知症は他人ごとではない」時代に突入しています。認知症は誰でもなる可能性のある病気で、いつ自分や家族が認知症になるかわかりません。「自分の問題である」という認識を持つことが大切です。

『歯みがきがセルフケアの基本』

嚙む行為によって三叉神経から大脳皮質が刺激されることで、脳が活性化するため認知症を防ぐことにも影響しています。歯を失う主な原因はむし歯と歯周病。とくに歯周病は、脳を老化させる大きな要因となり、痛みなどの自覚症状がほとんどないだけに、気づいたときには、すでに歯を保てない状態ということも少なくありません。歯周病の予防・治療は、歯を失わないためのもっとも重要なポイントです。

歯垢を取り除くために歯をきちんとみがくセルフケア。自分に合った方法を歯科医師や歯科衛生士にアドバイスしてもらおうとよいでしょう。

また、「できるだけ口の中を清潔に保つ」「自分の歯をできるだけ残す」という意識で日々を過ごすことが大切です。



庄内警察署
後藤 紘
(第四学区担当)

わごう駐在所

～庄内警察署からのお知らせ～

冬場の交通事故に気を付けましょう!

気温がぐっと下がる冬の朝は、雪が降っていなくても路面が凍結しているおそれがあります。路面凍結が発生する条件は、大気や路面の温度、時期によって様々ですが、特に凍結しやすい場所は、

橋の上、トンネルの出入口、陽の当たらない場所、交差点付近 となります。

事故に遭わないために「**冬道の安全運転5則**」を心がけた運転をお願いします。



- ① スピードは夏場より10キロ以上減速する
- ② 車間距離は路面乾燥時の2倍以上とする
- ③ 急加速、急ブレーキ、急ハンドル等の急激な操作を避ける
- ④ 視界不良時は前方をよく見て早めに徐行する
- ⑤ 危険がいっぱい。追越はしない

稲種“亀の尾”創選者 阿部亀治記念 第5回 和合の里 フォトコンテスト入賞作品

今年も素敵な作品をたくさんご応募いただきありがとうございます

一般の部

阿部亀治記念大賞

「朝日をあびる稲杭たち」

あらき しんや
荒木 伸彌

講評

前田野目にある稲杭が朝陽をあびているシーン。朝陽が上がる一瞬のシャッターチャンスを逃さずとらえています。稲の影の伸び方も光を感じます。影が黒くつぶれやすいのですがうまく撮ったと思います。



優良賞



「木漏れ日の中に踊る」 石崎 幸宏 いしざき ゆきひろ

講評 祭りに集まった人たちの様子を木漏れ日の光の中うまく一枚にまとめ、獅子の動きも出ている写真です。獅子をスローシャッターでブレさせるとなお躍動感が出ると思います。



「板彫仁王は 見ている」

佐藤 正人
さとう まさと

講評 仁王像の目に注目し鋭い眼光を収めた作品。手前の柵をボカすことで立体感を出し、見る人の視線が仁王像の目に行くようになっていいと思います。



「桜雪」 加藤 隆志 かとう たかし

講評 満開の桜の木と田んぼに降った季節外れの雪の珍しい風景を収めた写真。非常に珍しいシーンです。雪をもっと目立たせるとさらに良くなると思います。



「収穫の秋」 工藤 茂一 くどう もいち

講評 風車の下で稲刈りしているワンシーン。手前の風車と奥にある風車をうまく入れています。風車の動きを出すともっと生きた写真になると思います。



優良賞

「湖面の囁き」 兼古 哲也 かねこてつや

講評 小出沼の満開の桜が水面に映る様子が囁きを感じて撮った写真だと思います。最上川の土手に咲く桜も入れた遠近感もいいと思います。右上がりになっているので水平をしっかりと合わせて撮るともっと良くなります。

小学生の部

阿部亀治記念大賞

「屋根の上で見つめるヤギ」

いしざき あさひ
石崎 朝光

講評

屋根の上にいるヤギの写真。青空でヤギもカメラのほうを見ていてシャッターチャンスを見逃さずしっかり撮れた作品です。



庄内町長賞



「今日もいねかり日和」 石崎 叶芽 いしざき かなめ

講評 背景に風車を入れて稲刈りの最盛期にみられる風景です。杭掛けも見えて稲刈りの季節を感じます。

和合の里を創る会賞



「ちかよってきたひつじたち」 石崎 大賀 いしざき たいが

講評 羊が自分のところに寄ってきてちょっとびっくりしているシーンの写真です。写真を撮った本人の目線で羊が見えてリアル感が出ています。フレームから羊が切れるくらいの距離まで来ている様子がわかります。

優良賞



「冬のえさづくり」 石崎 叶芽 いしざき かなめ

講評 牧草を巻いてロールにしている農作業中の写真。望遠を使って背景との距離感をうまく出しています。これから冬が来るという季節を感じます。



「バイクはやいなー」 石崎 大賀 いしざき たいが

講評 カートソレイユでのバイクのレースの写真かと思いますが。バイクの車体の傾きなどスピード感が出ています。

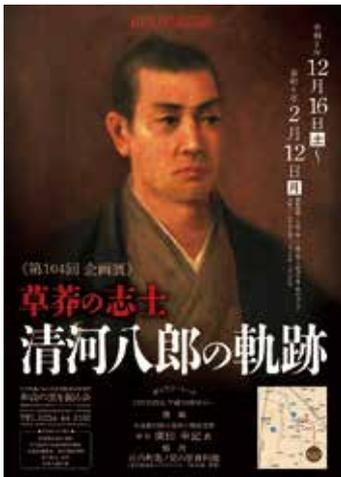


令和5年度 亀治の背負い上げの会

10月20日(金)、余目第四まちづくりセンター「和合館」では、おいしいお米のルーツである「亀ノ尾」とその創選者である阿部亀治の功績を顕彰し、亀治の背負い上げの会が開催されました。「亀ノ尾」を酒米とした日本酒や山菜を使用した小皿料理が振る舞われ、参加した方々はおいしい料理に舌鼓を打っていました。最後は万歳三唱で締めくくりました。

和合の里秋まつり

10月28日(土)～11月5日(日)にかけて和合館では「亀治の収穫感謝祭」と題し、みなさんが制作した作品が展示されました。小学生さんたちの描いた絵や幼稚園生さんたちの作ったカエルのお人形を展示したほか、一般の方々からも素敵な作品を多数出展していただきました。10月29日(日)には縁日コーナーの設置やキッチンカーの出店が行われ、多くの方にご来場いただきました。



亀ノ尾の里資料館 第104回企画展

「^{そうも}草莽の志士 清河八郎の軌跡」開催中

亀ノ尾の里資料館では、公益財団法人清河八郎記念館が休館になるこの時期に貴重な収蔵資料をお借りして出羽国清川村(現庄内町清川)に生まれた幕末の志士「清河八郎」についての企画展を開催しています。

清河八郎没後160年を記念し新選組・新徴組のもととなった浪士組結成までの経過や思想、新選組・新徴組の足跡などを紹介しています。

ぜひご来館ください。

◆期間/令和6年2月12日(月)まで

◆時間/午前9時00分～午後5時00分(入館は午後4時30分まで)

※1月11日(木)は清掃のため休館

全国納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞

国税庁と全国納税貯蓄組合連合会で「税についての作文」を募集しました。将来を担う中学生の皆さんが税を題材にした作文を書くことで、税について理解を深めることを目的としています。庄内町立余目中学校3年生が全国納税貯蓄組合連合会優秀賞を受賞されました。一部を掲載いたします。

題名「庄内町のランドセル」 庄内町立余目中学校3年生(京島)

「うれしかったです」

これは、前歯が抜けたばかりの私がランドセル贈呈式の感想をインタビューされて答えた時の言葉です。私の住む庄内町では、毎年小学校に入学する児童にランドセルを、中学校に入学する児童に通学カバンを贈呈しています。ランドセルは六年間、重たい勉強道具を詰めて使いました。いくら重い物を入れても壊れることはありませんでした。(中略)

この税金は日本中の子ども達がみんな平等に授業を受けるために必要なものだと思います。よく「税を払いたくない」と言う人はいますが、その人だって税のおかげで、見やすい教科書などで学習できたのだから文句は言えないと思います。税金は払うことで損をするばかりではないと思います。なぜなら、自分のために使われる税もあるからです。また、庄内町で育ち、今も住んでいるのなら子どもの頃ランドセルをもらい、笑顔になったはずです。今は、自分が払った税で庄内町のランドセルをもらった子どもを笑顔にしているはずです。だから、税は、庄内町のランドセルは、子どもたちの笑顔を作り出す嬉しい存在なのだと思います。

